



令和 3 年度高大連携プログラム「科学へのとびら」を実施

【概要】

令和 3 年 10 月 17 日（日）に、本年度初めて、高大連携プログラム「科学へのとびら」を学内行事として開催し、佐賀県内から同プログラムに参加している第 6 期生の高校生を対象に、理工学部および農学部の教員らが講演を行いました。

【本文】

佐賀大学では高大連携プロジェクト事業の一環として、「継続・育成型」の高大連携カリキュラムである「とびらシリーズ」を佐賀県教育委員会と協力して実施しています。理工学部と農学部で運営している「科学へのとびら」は、昨年より新型コロナウイルス感染症の感染拡大のためオンラインで開催していました。県内の鎮静化に伴ない、感染防止対策を十分に行った上で、令和 3 年 10 月 17 日（日）に本年度初めて大学内で対面にて実施しました。

今回、第 6 期生として登録した佐賀県内 14 校から 40 名の高校生が理工学部大学院棟で受講しました。大島 一里 農学部長の開講の挨拶ののち、生徒たちは最初に 3 年一貫プログラムの趣旨とポートフォリオ作成についての説明を受けました。次に、荒木 薫 ダイバーシティ推進室副室長がダイバーシティ入門として、多様性のある社会で活躍するため幅広い知識を身につける意義について講演を行いました。続いて、「科学の楽しさを知ろう」という趣旨で理工学部から成田 貴行 准教授、農学部から徳田 誠 准教授がそれぞれの専門分野で研究している動機や研究を続ける楽しさについて講演を行いました。講演後に生徒たちは、自分の思う科学の楽しさについて共有するとともに、講演者に対する質問を考えるグループワークを行いました。質疑応答の時間で、生徒たちは最初は遠慮がちでしたが、徐々に活発に質問を行うようになり、講演内容に対する高校生の理解の高さが伺えました。最後に、豊田 一彦 理工学部長が閉講の挨拶を行い、学内での初回のプログラムを終了しました。



成田貴行准教授による講演